ければぜひ御賞味いただければと思います。

そのほか、希少な国産ゴマの商品などもお土産として人気となっております。

また、宮田村のブースでは人気のマルスウイスキーや長野県第1号の地ビール、南信州ビールの商品もお買い求めいただけます。 そして、ライチョウグッズもたくさん取りそろえておりますので、ぜひ御覧いただければと思います。

エントランスのほうの物販コーナーでライチョウ会議駒ヶ根・宮田大会の思い出の一品を探してみてくださいませ。 この後、第2部の再開は午後1時を予定しております。

## 第2部 動物園で飼育し増やす生息域外保全の取り組み

座長 牛田 一成(中部大学応用生物学部)

**〇司会者(本間香菜子)** 皆様、お待たせをいたしました。

ただいまより第2部に移らせていただきます。

第2部は「動物園で飼育し増やす生息域外保全の取り組み」をテーマにお話を頂戴してまいります。

座長は中部大学応用生物学部 牛田一成様です。どうぞよろしくお願いいたします。

〔座長•中央大学応用生物学部 牛田一成 登壇〕(拍手)

**○座長(牛田 一成)** 中部大学の牛田でございます。

これから4題の座長を務めさせていただきます。

記載のとおり、動物園でライチョウを飼育し、今年はついに山に返すということができるようになりました。

動物園は、古くから珍しい生き物をお客さんに見せるというような、そういう娯楽施設としての役割は非常に歴史もありますし、 古くからそういう使われ方をしてきたわけです。

ところで、やっぱりこういう近年のいろんな絶滅危惧種がたくさん出てきてしまうような状況の中で、動物園というのは希少な動物を飼育する、そういうプロフェッショナルな場所として位置づけるというのが考え直されるようになってきて、保全、それから保護の中心的な施設として進んでいこうとされています。

ライチョウの事業に関しては、最初から動物園のそうした新しい機能性ということを意識して取り組みが進められてきています。 今回の4題というのは、その実践について最初は日動水―日本動物園水族館協会のライチョウ保護の計画委員の委員長の秋葉 先生にお願いしています。

その後の2園、那須どうぶつ王国さんと茶臼山に関しては、先ほど午前中にありましたように中央アルプスに運んだ個体を飼育していた動物園になります。

最後に、上野動物園の吉澤先生からは人口繁殖で人工授精を中心とした獣医的な技術のライチョウへの適用事例ということでお話をいただく予定です。

私も8年ぐらいライチョウに関わってまいりました。当初は哺乳類だったのですけれども、だんだん鳥の仕事が多くなりまして、今は、実は8年間ライチョウで勉強させていただいた成果に基づいて、アフリカでウガンダの動物園と協力して大型のインコのヨウムというものの保全事業を進めていたりします。

そういうことで、今回は動物園の実践としてはかなり先駆的な話をしていただけると思っております。どうぞ御期待ください。

## 1「ライチョウ生息域外保全の取り組み成果と今後の課題について」

秋葉 由紀 ((公社)日本動物園水族館協会ライチョウ計画管理者・富山市ファミリーパーク)



**○座長(牛田 一成)** それでは、最初に秋葉先生のほうから、よろしくお願いいたします。

**〇秋葉 由紀** そうしましたら、第2部は動物園の取組について報告をさせていただきますが、まず全体的なライチョウ生息域外保全の取組についてライチョウ計画管理者である秋葉から報告させていただきたいと思います。